

もくじ



今月の表紙  
『BAR TRIBECA』

事業所データ

◆代表者

おおくし しんや  
大串 信也

◆所在地

加古川市平岡町新在家2丁目268-12  
せびあはうす2F

◆表紙写真

- ①多数のお酒が並ぶカウンターの前で撮影（右手が大串さん）
- ②日常から非日常に誘う階段と隠れ家的な入り口。
- ③お酒のピンを利用したライトディスプレイ。通称“酔っ払いのひな壇”
- ④丁寧な所作でこだわりの一杯と心地よい時間をご提供します。
- ⑤12月1日からのアイリッシュコーヒーを是非ご賞味ください。
- ⑥⑦店内はカウンター席、ボックス席も用意。

2 特集

第25期役員、議員が決定！

7 クローズアップ

「守ります！ あなたと町の安全・安心を」  
兵庫県加古川警察署長  
警視正 濱田 和樹 さん

9 エッセイ

「『大丈夫だよ』と、あの日の僕に伝えたい。」  
（株）コーチングプロジェクト  
松本 瑞夫 さん

11 会議所のうごき

第25期がスタート -臨時議員総会を開催- 他

12 団体だより

女性会・青年部

15 会議所からのお知らせ

印刷物入札 他

16 会議所カレンダー

「今月の“こんな日”」

ご覧ください加古川商工会議所のホームページ <https://kakogawa-cci.or.jp/>



今月は、この12月で25周年の節目を迎えたオーセンティックバー『TRIBECA（トライベッカ）』の代表の大串さんにお話を伺いました。

店名の『TRIBECA』は、ニューヨーク市マンハッタンの下町地域の呼び名から取られています。「かつてはレンガ造りの倉庫街でしたが、アーティストが多く集まるようになり、現在では著名人も多く住むおしゃれなエリアになっています。この町のように、成功した人やそれに憧れる人たちが集まれる場になればと思つて名付けました」と話してくださいました。

そして世代を超えて互いに刺激し合える空間を目指してきた結果、現在では20代から80代まで幅広い世代のお客様が訪れるお店になりました。「25周年はまだまだ通過点だと思つていますが、コロナ禍という精神的にしんどかった時期を乗り越えた今は、ひとつの節目として感慨深いものがあります」と、25年の歩みを振り返ります。

お店の雰囲気をお客さんに大切にする上で指針となっているのが、茶道の「一座建立」の精神です。「亭主（バーテンダー）」とお客様が一緒になつて心地よい空間を創っていくことが、結果としてみんなが気持ちよく過ごせる居心地のいい場所につながっています」と説明します。ただ、この雰囲気は築かれたのは一朝一夕ではありません。「継続は力なり」と実感する大串さんは、「5年10年と続けて徐々に認知され始めた頃に、今のような雰囲気のお客さんが増えました。おかげさまで今や石垣のように大きく強固なものになりました」と語ります。

お客様とのエピソードについては、数えきれないほどあるそうですが、最近では「80代で初めてバーデビューされた方が、一歩踏み出してお酒の美味しさに気づいてもらえてとても嬉しかった」と印象的なエピソードを語ってくれました。

今後も「地元でありながら、地元感が無い——」そんなバーを目指して、扉を開けた瞬間から非日常へと誘う演出を心がけておられます。12月1日からは期間限定で『アイリッシュコーヒー』を提供します。ホットコーヒーとアイリッシュウイスキー、生クリームで作るこのカクテルは、コーヒー豆の厳選から作り方まで徹底的にこだわっています。これからの寒い時期、絶妙に調和した一品をぜひご賞味ください。

また、バーが初めての方には、ぜひ背伸びして新しい世界に触れてみて欲しいです。当店にはメニュー表はございませんが、飲みたい一杯を探すお手伝いをさせていただきます。どうぞお気軽にお声がけください。